

大矢光雄

東レ株式会社 代表取締役社長

「好きな言葉は吉田松陰の有名な『夢なき者に成功なし』。これには前置きがあつて、夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし、なのです」。明るい口調でこう話すのはグローバル企業、東レの新社長の**大矢光雄氏**である。

別名「ナイロンの大矢」。機能性の高い医療用ストックキングの繊維を高級ファッションストックキングに転用して女性を足のむくみの悩みから解放したり、繊維事業単体が赤字を出した翌年にユニクロの看板商品「ヒートテック」を商品化してヒットを飛ばし、ロングセラー商品に育てるなど、華々しいエピソードで知られているが、自身の経営マナーメントのベースになっているのは、マーケットがどん底の時にクリエイティブな部分と事業再構築の手法を同時に経験したことだという。

そして、冒頭の「夢」という意味では、「誰もが誇れる真のサステナブルな会社」にすることだと熱く語る**大矢社長**。そのビジョンを社内に徹底させ、実現するべく、**大矢社長**の挑戦は始まっている。

撮影◎戸川寛

誰もが誇れる

真のサステナブルな会社を目標して 社会に貢献する価値創出を図る

2026年に創立100年を迎える東レ株式会社。グループの売上収益約2兆5000億円を誇るグローバル企業のトップが、昨年13年ぶりに交代した。バトンを託されたのは、繊維事業で営業一筋に歩んできた**大矢光雄氏**である。同社は2025年度を最終年度とする新中期経営課題をスタートさせ、変化する外部環境に対応して新たな成長を目指している。その中で自身に課せられたミッションとは何か、どのような会社のかじ取りを目指すのかなど、**大矢新社長**に話を伺った。

サステナビリティ領域に 商材をコミットさせる

伊藤 大矢社長は副社長を経て、昨年6月に東レの代表取締役社長に就任されました。まずはグローバル企業のトップとしての抱負を伺いたいと思います。

大矢 当社は2年後の2026年が創立100周年です。会社が100年続けてきた要因はいろいろあると思いますが、「わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献しま

す」という我々の企業理念を経営マネジメントが従業員と一緒に連綿と続けてきた歴史があつて、それで今があると私は思っています。そのように持続可能な企業経営を進めてきましたが、現在は、社会にとつてもさらにサステナブルな要請が強まっています。これには持続的な社会を続けるという意味合いと、企業として求められる成長とを両立させなくてはいけないというテーマがあると思うのです。我々のようなケミカルメーカーは、エネルギーを使うということでは、CO₂排出の部分がややもすると企業の成長とセット

になってくる側面もあると思いますが、当社の商材を一つひとつ見ると、持続的な社会に貢献する商材がたくさんあり、事業機会は非常に増えています。そういう部分も含めて、持続的な社会の実現と企業の成長、これはイコール社会の成長にもつながるという意味で、当社は非常にポテンシャルのある会社だと思えます。ですので、機会を確実に捉えて、事業を拡大していくことが私自身に課せられた課題であり、社長としての抱負です。

一方で、当社の直近の状況で見ると、コロ